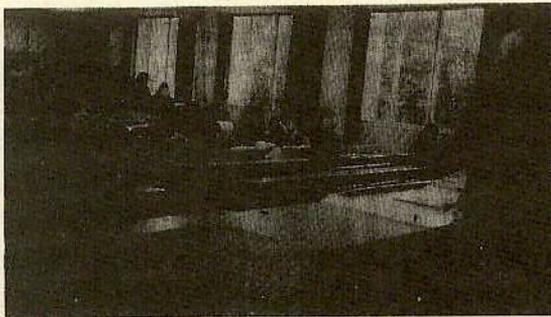


事業団中西理事長

千葉大学の教壇に

今年四月、センター事業団には二十一人の大学新卒者が入ってきます。今、学生の中でも「労働者協同組合」の名は知られ始めており、千葉大学教養部の授業には事業団全国連合会の中西理事長が講師としてよばれました。事業団に来る富満陽子さん（茨城キリスト教大学4年）も一緒に授業を受けました。



「大学で講義をするというのは初めてですか」と中西理事長



新年号第2部

私も授業を受けました

茨城キリスト教大学 富満陽子さん

あきらめきつちやつてるが12月16日の清々しく晴れた冬の朝。「いやあ、教室をそうじしたら、時間がかつちやつて」待ち合せの時間にちよつと遅れ、西千葉駅に佐藤和夫先生がジパン姿であられた。一年次生を対象に、「新しい文化の創造をテーマとして、各分野の先端をゆく人を招く特別講座」とのこと。

労働者協同組合は、労働者・働く人が、雇われるのではなく、みんな協同して企業をやるというところだ。自分たちで出資し、資

目立ったが、中西理事長が労働者協同組合の説明を始める、学生たちの背筋がしゃんと伸びた。「一般の企業は、これこれの賃金、労働条件で雇われる、ということになる。しかし、

「労働者協同組合は、労働者・働く人が雇われるのではなく、みんな協同して企業をやるというところだ。自分たちで出資し、資

人雇主の命令で動く。一種の隷属だ。しかし労働者協同組合は、働く人が主人公になる。二十一世紀には、労働者協同組合が主要な企業のかたちになつていくだろう。中西理事長はそう確信する理由について「今のままでは、労働者はあまりにもバカにされているのではないか、自分らの労働条件を自分らで決定することだ。労働者は必ず企業そのものの基本的な進み方について、自分が決める、決られるよ

この利潤原理社会に對して考え、実践している協同の原理の視点について訴え、一時間半の授業を終えた。あとで女子学生に聞くと、講義のなかみは十分のみにこめた、これを機会に労働者協同組合に興味をわいてきた、という、なかなか良い手応えであった。以前から問題意識はあったが、実際に、この日本社会の中で、このような理念で事業を展開しているところがある、という新鮮な驚きは、私自身が事業団に対して初めて味わった。



学平不定者の役員面接のあとは交流会。夜1時、2時と続く「中年パワー、にやや圧倒されたか？」

主人公になる働き方って本当にできるんですか？

「新しい文化の創造をテーマとして、各分野の先端をゆく人を招く特別講座」とのこと。「今の学生は、今の企業にあきらめきつちやつてるんです。だから、労働者協同組合みたいな働き方が本当に可能だったら、みんな希望をもてるんです」

本をつくって、自分たちで民主的に話しあつて管理・運営する。できるだけ剰余も多く出せるようにして、働き手に応じて分配し、新しい事業展開のための資金も蓄積する。「雇われられる関係のなかでは、雇われる側の危機」ととらえ

た感動でもあり、強く共感し、うれしく思つた。ポランティアで見たことと、じつは、私は大学生活の大半をポランティアアサールの活動に忙しかつた。「授業も最大限とつたが、地域の社会福祉関係者のとりくみや施設での行事などにはほとんど参加した。しかし、そこで見たのは、人間としての尊厳の追求を理念としてかかっている、一方では、経営面から理念

で去っていく、現場で働く人の哀しみだった。私はたまたま、リクルートの会社案内で事業団を知り、何回かの説明会に出ただけであり、実際に事業団の中で働いてはいない。しかし、「働く人が主人公」という理念と、その仕組みを、労働者協同組合として確立してきた事業団ならば、あらゆるニーズに主体的にとりくめ、柔軟に対応できるのではあるだろう、そんな時、この日の出会いが私を押し出してくれる。だろつと思つている。

この社会の中で事業団らにあるには、ぶつかつて抱いてゆかねばならない点も山ほどあるだろう。そんな時、この日の出会いが私を押し出してくれる。だろつと思つている。

私は、協同組合の行く先が、明るく照らし出されているように感じ、励まされた。この社会の中で事業団らにあるには、ぶつかつて抱いてゆかねばならない点も山ほどあるだろう。そんな時、この日の出会いが私を押し出してくれる。だろつと思つている。

「雇われられる関係でなく、教室は、やや空席も



「父を労働者として知るか、協同組合と富満さん

「父を労働者として知るか、協同組合と富満さん

「父を労働者として知るか、協同組合と富満さん

「父を労働者として知るか、協同組合と富満さん